# 大道芸 通信

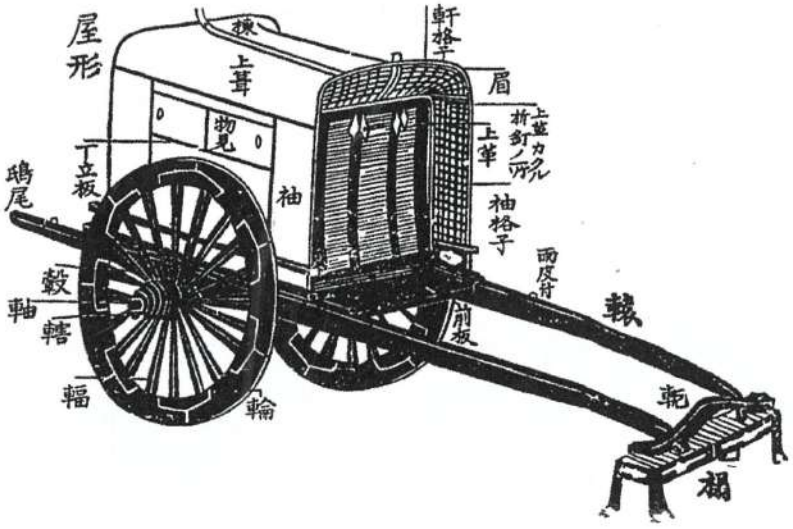
編集発行/日本大道芸・大道芸の会 光田 憲雄　(daidogei@kib.biglobe.ne.jp) http:// daidougei.seesaa.net


## 日本の生業

生業とは生活を維持するのに必要な仕事や職業のこと。随って人類の歴史と共にある。記録としては『魏志倭人伝』に「(邪馬台国の時代から) 壱岐対馬の人達は南北に市糴(交易)している」と書く。

そこまで遡らなくても近世以降に絞ると、京都を中心に上方に絞ると、室町末期頃から記録に残り出す。『山城名勝志』(宝永二年・一七〇二～約三十年間板)は四条立売()の事として左記のように書く

○四条立売(今東野洞院ノ東富ノ小路二丁ノ間ヲ号四条立売)　附車クレノ商買四条町の立ウリ云々
建武以来追加(禁制)　応安二年二月廿七日
一ヤクヲコボチウル事




「ヤクヲコボチウル事」とは「輒ヲ壊チ売る事」つまり「輒＝くびきを壊して売る事」

牛車(上図参照)の前、左右二本ある「轅」を繋ぐ部分(輒)を壊して売る事を禁止する　と言う事である。

人間を乗せる物を「ぎっしゃ(牛車)」荷物を運ばせる物を「うしぐるま(牛車)」と使い分けていた。

牛が牽くにしろ人が曳くにしろ、一番力がかかる部分「輒」である。現在の解体屋よろしく、最初に致命的な部分を取り外し、あとはゆっくりと再組み立てしたのか、そこまでは知らない。何れにしろ盗んだ物を売り飛ばす闇の商売人がいたようである。

近世になると如何にもいかがわしい商人が出てくる。元禄三年(一六九〇)が載す「口上商人」の条に次のようにある。

《万の合わせ薬ならびに鬢付けの類　諸方の市　法会の場等に出　弁舌をもてこれを売る　亦は神を誓ひ　蛇を見せ　操り人形を出物真似をして人を集めてこれを商ふ　顔の皮一枚の商ひなり》(『人倫訓蒙図彙』)

元禄時代間にはまだ香具師という詞言葉も組織もなかったからこう表現しているが後に香具師と呼ばれる人達の売り方である。

香具師と云えば後には色々な問題を起こすが、香具師は元来「香具師」であり「薬師」つまり「薬売り」の事である。だから彼らが祖神と仰ぐ「神農」は製薬会社が祀る炎帝神農と同じ物なのである。何れも「百層を嘗めて医薬を知り」に由来する。

何れにしろこの頃までは認していた。全国組織である事を利用し、幕府の末端組織として諸藩に入り、スパイ活動をさせたりした。

これが後に維新政府が実現すると目の敵にされ『太政官布告』で禁止される遠因となるのである。

○明治五年七月八日　太政官布告
従来香具師ト唱ヘ来候名目自今被廃止候事
但銘々商売ノ儀ハ可為勝手事

以来「商売ノ儀」を続ける「旧香具師」に対する呼称は「テキヤ」となり今に続いているのである。

最近は寺社の縁日を主要な商売の地としているようだが、元々人の集まる所ならどこででも商売していた。道路交通法などの規制が増えた今日では、見世を出せる場所が狭まったようである。

元々薬売り集団であった香具師だが、その頃には商売の手を広げ露天商集団に成長していた(但し建前は薬売り集団である事に固執していた)。だから屁理屈を並べて飽く迄薬売り集団であると主張し、大岡越前守もそれを黙

香具師と云えば色々な問題を起こすが、香具師は元来「香具師」であり「薬師」つまり「薬売り」の事である。だから彼らが祖神と仰ぐ「神農」は製薬会社が祀る炎帝神農と同じ物なのである。何れも「百層を嘗めて医薬を知り」に由来する。

何れにしろこの頃までは認していた。全国組織である事を利用し、幕府の末端組織として諸藩に入り、スパイ活動をさせたりした。

これが後に維新政府が実現すると目の敵にされ『太政官布告』で禁止される遠因となるのである。

○明治五年七月八日　太政官布告
従来香具師ト唱ヘ来候名目自今被廃止候事
但銘々商売ノ儀ハ可為勝手事

以来「商売ノ儀」を続ける「旧香具師」に対する呼称は「テキヤ」となり今に続いているのである。

最近は寺社の縁日を主要な商売の地としているようだが、元々人の集まる所ならどこででも商売していた。道路交通法などの規制が増えた今日では、見世を出せる場所が狭まったようである。

元禄時代間にはまだ香具師という詞言葉も組織もなかったからこう表現し

元禄三年(一六九〇)が載す「口上商人」の条に次のようにある。

《万の合わせ薬ならびに鬢付けの類　諸方の市　法会の場等に出　弁舌をもてこれを売る　亦は神を誓ひ　蛇を見せ　操り人形を出物真似をして人を集めてこれを商ふ　顔の皮一枚の商ひなり》(『人倫訓蒙図彙』)

元禄時代間にはまだ香具師という詞言葉も組織もなかったからこう表現し

ここの事古老の物語を記して云　寛文(一六六一～七三)の頃まで様々の商人己が売物を持て立ち並び売りたり　刀脇差しなどの商弁舌切らして売りたるなり人万商ひかくのごとし云々

寛文頃までは売人が直接商品を持参していた江戸も時代が進むにつれ町並みも整い商店も出来るようになったが、まだまだである。

これが京大坂と肩を並べ、やがて追い越すようになるのは大岡越前の現れた享保年間(一七一六～三六)以降である。彼が町奉行へ就任したのは享保二年。物売商人の集団である香具師集団と接触し始めたのは能く三年から。

ている人達の売り方である。

香具師と云えば後には色々な問題を起こすが、香具師は元来「香具師」であり「薬師」つまり「薬売り」の事である。だから彼らが祖神と仰ぐ「神農」は製薬会社が祀る炎帝神農と同じ物なのである。何れも「百層を嘗めて医薬を知り」に由来する。

何れにしろこの頃までは認していた。全国組織である事を利用し、幕府の末端組織として諸藩に入り、スパイ活動をさせたりした。

これが後に維新政府が実現すると目の敵にされ『太政官布告』で禁止される遠因となるのである。

○明治五年七月八日　太政官布告
従来香具師ト唱ヘ来候名目自今被廃止候事
但銘々商売ノ儀ハ可為勝手事

以来「商売ノ儀」を続ける「旧香具師」に対する呼称は「テキヤ」となり今に続いているのである。

最近は寺社の縁日を主要な商売の地としているようだが、元々人の集まる所ならどこででも商売していた。道路交通法などの規制が増えた今日では、見世を出せる場所が狭まったようである。